

## 白昼の怪

「老人ホームはうばすて山」「寝たきり老人、じつはピンピン」「年よりをなぜ大事にするのか、分からない」など、暴言をまき散らしたひとがこの国にいたことを、覚えていられるだろうか。本紙一年前の一月二十三日の報道である。そのひとはこともあるうに厚生省老人福祉課長。だから、国会で厚生大臣は「適切でない。決意をもって対処する」と陳謝ちんしゃ。

それから一年。「月刊福祉」本年二月号で、「あれは新聞が流した大デマ、課長は無実だ」と言いはるひとが現れた。私は真昼のお化けを見る思いで読み返した。日本最大のA紙論説委員の肩書を記したO氏である。余りのウソに論説委員室に電話をいれた。

O氏―「各紙のデマ糾明きゆうめいも新聞人のつとめ。冤罪えんざいをはらしたい」。私―「デマとはないことを言いふらすことだ。ことの起こりはすべて課長発言に由来する。君こそデマ宣伝だ」。

いつこうにひるまない。論説主幹に問題を移そうと考えたが、順序として月刊福祉へ反論を掲載させるのが先だろう。しかし、この雑誌も「拍手喝采かっさい、正義の記者魂」とたたえる始末だから、すんなりはいくまい。

せまい紙面だが、O氏言い分の一例を。「老人ホームではうっかりすると昼飯にメロンまで出る」との課長発言をこう弁護する。「課長はお年よりは社会保障制度で支えなければならぬ。メロンを出せばよいというような表面的なものではダメといっている」、だから正論だと言いはる。中学の国語力にも劣る解釈をする論説委員である。正義どころか、かばいだてする私情ありありのおそまつ。

当の課長じしんがすでに、「穩当おんとうを欠く面があったのは事実で、結果的に誤解を招き深く反省している」と言っているではないか。

(一九八七年一月三十一日)